



平成28年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年6月10日  
東

上場会社名 株式会社エイチーム 上場取引所  
コード番号 3662 URL <http://www.a-tm.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 高生  
問合せ先責任者 (役職名) 社長室長 (氏名) 光岡 昭典 (TEL) 052-747-5573  
四半期報告書提出予定日 平成28年6月10日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年7月期第3四半期の連結業績(平成27年8月1日～平成28年4月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年7月期第3四半期	16,210	43.9	1,464	△10.9	1,358	△20.6	788	△27.2
27年7月期第3四半期	11,264	23.8	1,642	61.9	1,711	65.6	1,083	82.8

(注) 包括利益 28年7月期第3四半期 788百万円(△28.1%) 27年7月期第3四半期 1,096百万円(85.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年7月期第3四半期	41.86	41.63
27年7月期第3四半期	55.96	55.40

(注) 当社は平成27年5月1日を効力発生日として、普通株式1株につき、2株の割合をもって分割いたしました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年7月期第3四半期	8,255	4,555	54.0
27年7月期	7,656	4,008	50.9

(参考) 自己資本 28年7月期第3四半期 4,455百万円 27年7月期 3,900百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年7月期	—	10.00	—	7.50	—
28年7月期	—	5.00	—	—	—
28年7月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は平成27年5月1日を効力発生日として、普通株式1株につき、2株の割合をもって分割いたしました。平成27年7月期第2四半期末については当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。平成27年7月期期末につきましては、当該株式分割を考慮した額を記載しております。なお、株式分割実施前に換算すると、1株あたり15円となります。平成28年7月期の期末配当予想につきましては、現在未定です。

3. 平成28年7月期の連結業績予想(平成27年8月1日～平成28年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,000	26.4	2,100	0.6	2,100	△3.0	1,400	2.8	74.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	28年7月期3Q	19,423,600株	27年7月期	19,405,600株
② 期末自己株式数	28年7月期3Q	580,020株	27年7月期	580,020株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	28年7月期3Q	18,837,081株	27年7月期3Q	19,359,158株

(注) 1. 当社は平成27年5月1日を効力発生日として、普通株式1株につき、2株の割合をもって分割いたしました。平成27年7月期の業績予想における1株当たり当期純利益につきましては、当該分割を考慮した額を記載しております。

2. 平成28年7月期第3四半期の発行済株式数 (普通株式) について、当第3四半期連結累計期間に導入した「株式付与ESOP信託」及び「株式報酬BIP信託」に残存する自己株式を「期末自己株式数」において277,500株含めており、「期中平均株式数」において277,500株控除しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信 (添付資料) 4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

国内のインターネットを取り巻く市場は、インターネットの利用者数が平成26年末時点で推計1億18万人、インターネット利用者の割合は前年と同じ82.8%となりました（総務省の平成26年「通信利用動向調査」平成27年7月公表）。

モバイルビジネスを取り巻く環境につきましては、平成27年9月末時点のスマートフォン契約数が7,237万件（端末契約数の56.9%）となりました（MM総研「スマートフォン・MVNOの月額利用料とサービス利用実態」平成28年4月公表）。

このような状況の下、エンターテインメント事業では継続して新規スマートデバイス向けゲーム開発に取組みながら、既存ゲームの効率的な運用を進め、過去最高の四半期売上を達成いたしました。

ライフスタイルサポート事業では各サービスの更なる充実に注力し、それぞれの産業領域におけるマーケットシェアの拡大及び安定的な成長に向けて取り組み、過去最高の四半期売上を達成いたしました。

なお、平成27年9月に東京にスマートデバイス向けゲーム開発拠点を新設し、平成27年12月に事業拡大に伴う従業員の増加を見据えるとともにグループ企業を集約し、より一層の業務の効率化を図るため、本社移転を実施したことにより、直前四半期に移転に伴う一過性費用の発生及び地代家賃等の固定費の増加により、営業利益及び経常利益が前年同四半期比で減少しました。

また、当第3四半期連結累計期間において、一部ゲームタイトル等の減損損失を計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純利益が前年同四半期比で減少しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は16,210,706千円（前年同四半期比43.9%増）、営業利益は1,464,177千円（前年同四半期比10.9%減）、経常利益は1,358,029千円（前年同四半期比20.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は788,460千円（前年同四半期比27.2%減）となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント別の業績は以下のとおりであります。

#### <エンターテインメント事業>

エンターテインメント事業では、主にスマートフォンアプリの企画・開発・運営を行っております。

スマートフォンアプリにつきましては、年末年始需要の反動減があったものの、平成27年3月にリリースした「三国大戦スマッシュ！」（爽快ひっぱり大戦アクション）がけん引し、過去最高の四半期売上を達成いたしました。9ヵ月累計期間においては、平成26年12月にリリースした「ユニゾンリーグ（Unison League）」（新感覚リアルタイムRPG）、平成25年5月にリリースした「ダービーインパクト（Derby Impact）」（本格3D競走馬育成ゲーム）及び平成27年3月にリリースした「三国大戦スマッシュ！」（爽快ひっぱり大戦アクション）が好調に推移し、エンターテインメント事業の売上・利益ともに前年同四半期比で増加しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は8,701,872千円（前年同四半期比59.7%増）、セグメント利益は1,590,878千円（前年同四半期比16.7%増）となりました。

#### <ライフスタイルサポート事業>

ライフスタイルサポート事業では、「不安の解消」をテーマに、日常生活に密着したウェブサービスの企画・開発及び運営を主に行っています。

引越し関連事業「引越し侍」及び自動車関連事業「ナビクル」は継続して業界トップシェアを維持しております。「引越し侍」及び自転車通販サイト「cyma-サイマー」は3月、4月が繁忙期、金融メディア事業「ナビナビキャッシング」は繁忙期にさしかかり、「すぐ婚navi」を中心としたブライダル関連事業は、ウェブ集客や周辺サービスの拡充施策が功を奏し、各事業それぞれ過去最高の四半期売上を達成いたしました。9ヵ月累計期間においては、「引越し侍」、「すぐ婚navi」が安定的に成長し、加えて平成25年12月にサービスを開始した「cyma-サイマー」と「ナビナビキャッシング」が大きく成長し、ライフスタイルサポート事業全体の売上・利益ともに前年同四半期比で増加いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は7,508,834千円（前年同四半期比29.1%増）、セグメント利益は1,082,263千円（前年同四半期比23.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第3四半期連結会計期間末における総資産は8,255,559千円となり、前連結会計年度に比べ598,779千円増加いたしました。これは主に、金銭の信託の減少1,055,010千円及び現金及び預金の減少698,733千円があったものの、建物(純額)の増加1,025,442千円及び受取手形及び売掛金の増加805,891千円によるものであります。

② 負債

当第3四半期連結会計期間末における負債は3,699,632千円となり、前連結会計年度に比べ51,359千円増加いたしました。これは主に、短期借入金の減少438,000千円及び未払法人税等の減少430,199千円があったものの、未払金の増加531,207千円、資産除去債務の増加386,708千円及び買掛金の増加55,249千円によるものであります。

③ 純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は4,555,927千円となり、前連結会計年度に比べ547,419千円増加いたしました。これは主に、利益剰余金の増加553,065千円によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは「みんなで幸せになれる会社にすること」、「今から100年続く会社にすること」を目指して、「エンターテインメント事業」と「ライフスタイルサポート事業」をバランスよく伸ばすことで、高い成長性と経営の安定性を図っております。

当第3四半期連結累計期間におけるエンターテインメント事業は、「ユニゾンリーグ」、「ダービーインパクト」の好調に加え、「三国大戦スマッシュ！」が予想を大きく上回り、上期にリリースした新規タイトルの不振を補い、現時点ではセグメント売上・利益ともに概ね計画通りの進捗であります。下期の新規タイトルにつきましては、リリースタイミングの不確実性が高く、その売上・利益寄与並びに先行投資費用を織り込まないことを前提とした場合、想定できる計画比での乖離幅は微小であると考えております。

なお、下期の新規タイトルの立ち上りの状況によっては、売上が上振れる可能性や成長をドライブする為の先行投資による利益の下振れ等が生じる可能性があります。

ライフスタイルサポート事業におきましては、引越し比較・予約サイト（「引越しし待」）、車査定・車買取サイト（「ナビクル」）、結婚式場情報サイト（「すぐ婚navi」）、及びキャッシング・カードローン総合検索サイト（「ナビナビキャッシング」）、自転車通販サイト（「cyma」）5つのメインサービスそれぞれが計画比で若干の増減があるものの、現時点では、ライフスタイルサポート事業全体の通期セグメント売上・利益ともにほぼ計画通りの着地となる見込みであります。

従いまして、通期連結業績予想につきまして、現段階では平成27年9月11日発表の連結業績予想を据え置くことといたします。

上記の将来に対する記述、以下の業績予想数値は本資料発表日現在において当社グループが入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により変動する可能性があります。

平成28年7月期 通期業績見通し（平成27年8月1日～平成28年7月31日）

売上高	20,000百万円	（前連結会計年度比	26.4%増）
営業利益	2,100百万円	（前連結会計年度比	0.6%増）
経常利益	2,100百万円	（前連結会計年度比	3.0%減）
親会社株主に帰属する当期純利益	1,400百万円	（前連結会計年度比	2.8%増）

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、平成27年7月31日時点で持分法適用関連会社であった株式会社Ateam NHN Entertainmentは平成27年6月15日の株主総会の決議により解散し、平成27年9月4日に清算終了いたしました。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,097,994	2,399,260
受取手形及び売掛金	1,787,661	2,593,552
金銭の信託	1,055,010	—
商品	55,264	171,014
その他	344,723	484,683
貸倒引当金	△6,028	△5,983
流動資産合計	6,334,626	5,642,527
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	36,743	1,062,185
その他(純額)	88,655	296,839
有形固定資産合計	125,399	1,359,025
無形固定資産		
460,074	460,074	555,109
投資その他の資産		
投資有価証券	193,206	86,929
敷金及び保証金	361,747	451,786
その他	188,940	164,965
貸倒引当金	△7,213	△4,784
投資その他の資産合計	736,680	698,896
固定資産合計	1,322,154	2,613,031
資産合計	7,656,780	8,255,559
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	104,628	159,877
短期借入金	1,700,000	1,262,000
未払金	1,017,263	1,548,470
未払法人税等	454,741	24,542
販売促進引当金	14,023	7,394
株式給付引当金	—	29,265
役員株式給付引当金	—	16,808
その他	357,615	264,564
流動負債合計	3,648,272	3,312,923
固定負債		
資産除去債務	—	386,708
固定負債合計	—	386,708
負債合計	3,648,272	3,699,632
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	533,442	534,219
資本剰余金	507,242	337,356
利益剰余金	4,263,472	4,816,538
自己株式	△1,403,649	△1,232,986
株主資本合計	3,900,508	4,455,127
新株予約権	108,000	100,800
純資産合計	4,008,508	4,555,927
負債純資産合計	7,656,780	8,255,559

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年8月1日 至平成27年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成28年4月30日)
売上高	11,264,939	16,210,706
売上原価	1,670,810	2,576,521
売上総利益	9,594,129	13,634,184
販売費及び一般管理費	7,951,244	12,170,007
営業利益	1,642,885	1,464,177
営業外収益		
受取利息	21,893	535
投資事業組合運用益	—	13,566
為替差益	38,712	—
その他	44,262	5,715
営業外収益合計	104,868	19,818
営業外費用		
支払利息	326	4,447
金銭の信託運用損	—	93,390
為替差損	—	26,279
持分法による投資損失	29,992	—
その他	6,243	1,848
営業外費用合計	36,562	125,965
経常利益	1,711,190	1,358,029
特別利益		
新株予約権戻入益	—	7,200
投資有価証券売却益	37,544	—
特別利益合計	37,544	7,200
特別損失		
減損損失	30,825	218,946
特別損失合計	30,825	218,946
税金等調整前四半期純利益	1,717,909	1,146,283
法人税等	634,582	357,822
四半期純利益	1,083,327	788,460
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,083,327	788,460

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年8月1日 至平成27年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成28年4月30日)
四半期純利益	1,083,327	788,460
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	12,973	—
その他の包括利益合計	12,973	—
四半期包括利益	1,096,301	788,460
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,096,301	788,460

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成26年8月1日至平成27年4月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	エンターテイン メント事業	ライフスタイル サポート事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,449,878	5,815,061	11,264,939	—	11,264,939
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—
計	5,449,878	5,815,061	11,264,939	—	11,264,939
セグメント利益	1,362,811	873,777	2,236,589	△593,703	1,642,885

(注) 1. セグメント利益の調整額△593,703千円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「エンターテインメント事業」セグメントにおいて、当社が保有している固定資産のうち、その収益性が低下しているものについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては30,825千円であります。

当第3四半期連結累計期間(自平成27年8月1日至平成28年4月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	エンターテイン メント事業	ライフスタイル サポート事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,701,872	7,508,834	16,210,706	—	16,210,706
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—
計	8,701,872	7,508,834	16,210,706	—	16,210,706
セグメント利益	1,590,878	1,082,263	2,673,142	△1,208,964	1,464,177

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,208,964千円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「エンターテインメント事業」セグメントにおいて、当社が保有している固定資産のうち、その収益性が低下しているものについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては218,946千円であります。